



## 方針

### 環境方針

IHI原動機は地球環境保全への取り組みを経営の最重要課題の一つと位置付け、製品の開発、製造及びサービスが環境に与える影響と外部の環境状況が組織に影響を与える可能性を的確に捉え、環境に配慮した企業活動の下、製品及びサービスを提供することにより、全員参加で次世代のため豊かな地球環境の保全と社会の持続可能な発展に貢献することを環境の基本方針とします。

- (1) 省エネルギー・省資源を推進し、ライフサイクルを通して環境負荷を低減し脱炭素社会の実現に貢献する製品・サービスの開発・普及に努め、事業活動を通して継続的な自然と技術が調和する社会の構築と、廃棄物の削減と資源のリサイクルに取り組むとともに、地球温暖化の防止に努めます。
- (2) 環境側面に関連する法規制及び地域社会との協定等を順守し、化学物質の適切な管理とともに、環境負荷低減への継続的な改善を行い、環境汚染物質の流出防止のため予防処置を図り環境保護に努めます。
- (3) 本環境方針及び環境改善活動に関しては、環境報告書等で社内外に情報を発信し、地域社会及び広く当社を取り巻くステークホルダーとの共生を図ります。
- (4) ISO14001に適合した環境マネジメントシステムを各部門で構築し、維持するとともに、パフォーマンスを向上させるため、システムの継続的な改善を行います。
- (5) 本環境方針と整合する環境目標の設定及びレビューのための仕組みとして各層において期毎に到達すべき目標を設定し、その目標の達成に向けて努力します。
- (6) 本環境方針を当社及び関連する会社の全員に理解させて教育を通じて環境意識の向上に努めるとともに、この方針を適切に持続するため定期的にレビューを行います。

### 安全衛生方針

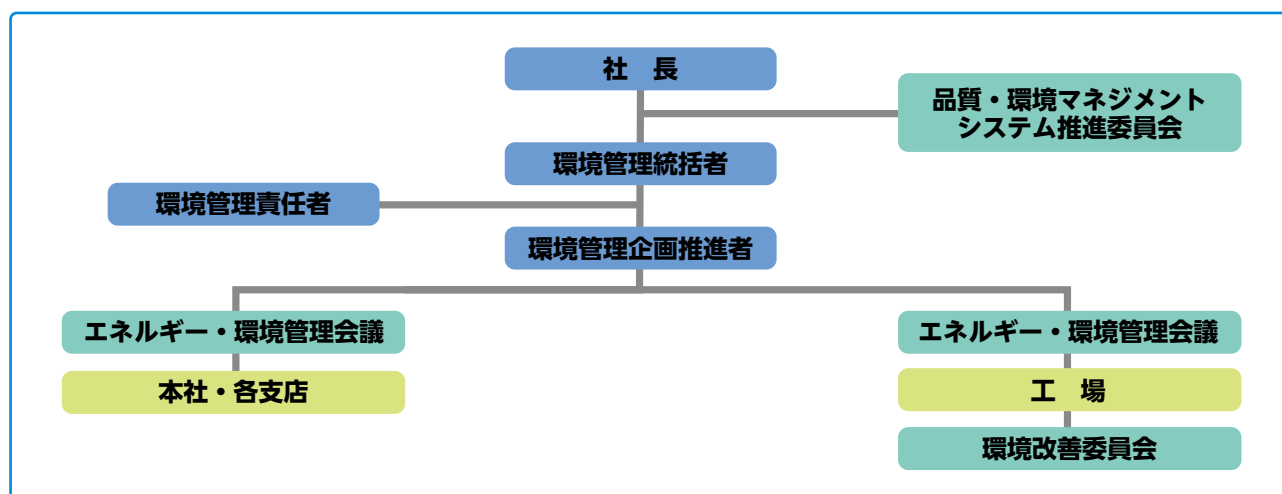
労働安全衛生は、会社経営において最も重要、かつ基本的事項の一つであり、従業員の安全と健康を守ることは、人間尊重の理念に立脚した会社の社会的責務である。

この基本的考え方に基づき、職場における日常の安全衛生管理体制を一層強化し、特に管理監督者は常に危険に対する感受性を磨き、的確な安全指示をすることが必要である。

また、合わせて心身両面に亘る健康の保持増進のため、従業員一人ひとりが意識を高め、職場の安全は自ら守り、相互に指摘し合える風土を作ることで、全員参加のもと災害・疾病のない快適な職場環境作りを推進する。

- (1) 真のゼロ災害を目指すため、安全五原則を行動指針とし、経営者、従業員、協力員による全員参加のもと継続的な安全衛生活動に取り組みます。
- (2) 労働安全衛生法をはじめ関係する法令を遵守するとともに、会社および事業所で定めた安全衛生規程類に基づき従業員の安全衛生を確保します。
- (3) 従業員の疲労軽減および心と体の健康の保持増進を図ります。
- (4) 経営幹部や安全衛生委員などによる安全衛生パトロール、ヒヤリハット、労働災害事例からきめ細かく分析した結果に基づき毎年の重点課題や安全衛生計画を定め実行します。
- (5) 労働安全衛生マネジメントシステムに基づく安全衛生活動を推進し、リスクアセスメントにより職場の潜在的な危険、有害要因を根本的に取除き、「危険ゼロ」の職場を作ります。

## エネルギー・環境管理体制



(2021年3月31日現在)

## 環境目標

環境基本方針に基づき、生産部門においては生産活動における省エネや工数低減を主体に、前年度対比原単位当りの原油換算エネルギー使用量1%削減を環境目標に活動を展開しています。また、本社・支店等の事務所部門においては、ムダエネルギーの排除、室内温度の適正化など環境意識の向上を図り、電気使用量1%削減目標で活動しています。

## EMS 活動

### 緊急事態が発生した場合の対応訓練実施事例

#### 【燃料油の流出】 状況：貫流ボイラー燃料タンク給油作業時、流出する可能性がある

##### ① 流失した燃料油の流出防止

油流出(無線にて状況報告)  
ボイラー停止：20秒



##### ② 油流出部の応急処置

油をバキュームと吸着マットで回収  
流出確認から所要時間：およそ5分



##### ③ 貯留設備からの流出防止

雨水構内状況に応じて、土嚢にて油流出を防止する



#### ● 緊急事態が発生した場合の対応訓練結果

訓練結果、給油時で流出する燃料は、最大20L/minであり、流出発見から燃料油回収ポンプ停止措置までの所要時間は20秒で、流出はおよそ7Lと想定される。

雨水構内状況に応じて、土嚢にて油流出を防止する。社内規定に基づいて訓練を実施し、緊急事態対応手順に間違いがないことを確認した。(所要時間20分)

## 内部監査員教育

品質・環境内部監査員教育を4月20日、21日の二日間にわたり総勢36名の参加で開催しました。2019年までは教育対象者をIHI原動機本社に集めて、受講者と顔を合わせて教育を実施していましたが、2020年は新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から初めて、各事業所をWEB会議システムで中継しての開催となりました。

過去の問題事例についてタートルモデル図を使って、

プロセスとして捉えて分析・考察する練習、架空の会社の監査内容を描写した問題に対する問題点の考察などを通じて、監査員の力量向上を図りました。事務局となる品質保証室も受講者も不慣れな点は見られましたが、互いに協力しながら実施することができました。今後も内部監査を通じ環境保全の取り組みについて一層の浸透を図っていきます。



## IHIグループ省エネオンライン研修会

2021年1月22日と2月10日の両日で省エネオンライン研修会が開催され、IHI原動機も参加しました。例年であれば、IHI人材開発交流センターのI-STEP湘南にグループ会社の省エネ担当者が集合する形式で行われていましたが、今回は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、Teams会議形式のオンライン研修となりました。

この研修会の主旨は、省エネ法や原単位管理に関する理解と知識を深め、IHIグループ省エネ担当者同士での省エネ事例発表や意見交換により自社での省エネ活動の進め方のヒントを得ることです。

主な内容としては、1日目がグループ会社の省エネ活動事例から学ぶ省エネ活動の進め方について、2日目は定期報告書作成のポイントと適正な原単位管理についての解説でした。

省エネ事例については、IHI原動機を含めたグループ

会社数社で、今まで導入した省エネ施策を発表し、情報共有する形式で進められました。他社の考え方や実際に導入された事例等をみる機会はあまり無く、どのように計画・実行・運用しているのかを聞くことができ大変勉強になりました。

定期報告書作成のポイントと原単位管理については、SDGsの講義から始まり演習科目へと進む形式でした。演習では、事業者が工場調査に選定された理由と定期報告における問題点の抽出、原単位管理では、重みづけ係数とみなし生産高の考え方、回帰分析から原単位の悪化理由について評価する手法を学習し、定期報告書提出時の注意点、原単位改善・管理手法などを学ぶことができました。

今回学んだことを各事業所にて展開し、より良い改善活動ができるように活用していきたいと思います。



IHIグループ省エネオンライン研修会  
(2021年1月22日、2月10日実施)